

DIALOG(R)File 345:Inpadoc/Fam.& Legal Stat

(c) 2003 EPO. All rts. reserv.

10037143

Basic Patent (No,Kind,Date): JP 3163418 A2 910715 <No. of Patents: 002>

LIQUID CRYSTAL ELEMENT (English)

Patent Assignee: CANON KK

Author (Inventor): SUZUKI MASAAKI; NISHIDA NAOYA; SHIMAMUNE MASAYUKI

IPC: *G02F-001/1339; G02F-001/1343; G09F-009/30

JAPIO Reference No: 150406P000017

Language of Document: Japanese

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applic No	Kind	Date
JP 3163418	A2	910715	JP 89301948	A	891122 (BASIC)
JP 2767145	B2	980618	JP 89301948	A	891122

Priority Data (No,Kind,Date):

JP 89301948 A 891122

DIALOG(R)File 347:JAPIO

(c) 2003 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

03500518 **Image available**

LIQUID CRYSTAL ELEMENT

PUB. NO.: **03-163418** [JP 3163418 A]

PUBLISHED: July 15, 1991 (19910715)

INVENTOR(s): SUZUKI MASAAKI

NISHIDA NAOYA

SHIMAMUNE MASAYUKI

APPLICANT(s): CANON INC [000100] (A Japanese Company or Corporation), JP
(Japan)

APPL. NO.: 01-301948 [JP 89301948]

FILED: November 22, 1989 (19891122)

INTL CLASS: [5] G02F-001/1339; G02F-001/1343; G09F-009/30

JAPIO CLASS: 29.2 (PRECISION INSTRUMENTS -- Optical Equipment); 44.9
(COMMUNICATION -- Other)

JAPIO KEYWORD:R011 (LIQUID CRYSTALS)

JOURNAL: Section: P, Section No. 1263, Vol. 15, No. 406, Pg. 17,
October 16, 1991 (19911016)

ABSTRACT

PURPOSE: To obtain the liquid crystal element having good display quality by simultaneously forming spacers of the same thickness as thickness of electrodes on at least one glass substrate in the regions, exclusive of a display region, within a cell by using the same material.

CONSTITUTION: The transparent electrodes, 2, 2 having 3,000 angstroms film thickness are formed in a stripe shape on the upper and lower glass substrates 1, 1' so as to face each other like an orthogonal matrix to form the display region (a). The lead electrodes 3, 3' of the same material and thickness as the material and thickness of the electrodes 2, 2' are simultaneously formed and the spacers 4, 4' for maintaining a prescribed cell gap uniformly at 1.5 plus or minus 0.1.mu.m over the entire surface by again using the same material to the same thickness. The spacers 4, 4' are formed to the shape extending the striped electrodes 2 up to the parts interposed with a sealing material 6 on the upper substrate 1 side and are provided on the outer side of the electrodes 2' in parallel therewith on the lower substrate 1' side. After the respective substrate surfaces formed with the patterns are subjected to an orientation treatment, glass beads 7 of 1.5.mu.m.phi. mixed in the sealing material 6 by 1% are transferred by flexographic printing to 1mm width and 3.mu.m thickness only on the substrate on one side. The substrates 1, 1' are stuck to each other and a buffer material is inserted between the substrates 1 and 1'. The element is then heated to cure the sealing material 6.

⑫ 公開特許公報 (A) 平3-163418

⑬ Int. Cl. 5

G 02 F 1/1339
1/1343
G 09 F 9/30

識別記号

500
320

庁内整理番号

9018-2H
9018-2H
8621-5C

⑭ 公開 平成3年(1991)7月15日

審査請求 未請求 請求項の数 5 (全7頁)

⑮ 発明の名称 液晶素子

⑯ 特 願 平1-301948

⑯ 出 願 平1(1989)11月22日

⑰ 発明者 鈴木 正明	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	キヤノン株式会社内
⑰ 発明者 西田 直哉	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	キヤノン株式会社内
⑰ 発明者 島宗 正幸	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	キヤノン株式会社内
⑰ 出願人 キヤノン株式会社	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	
⑰ 代理人 弁理士 伊東 哲也	外1名	

明細書

1. 発明の名称

液晶素子

2. 特許請求の範囲

(1) 電極を形成した2枚の基板を電極面を対面させて所定間隔を隔てて対向配置し、両基板間の電極対面部にギャップ材を介装し、該電極対面部の周囲をシール材で封止し、該シール材封止部の少なくとも一方の基板上に前記電極と同じ厚さのスペーサーを設けたことを特徴とする液晶素子。

(2) 前記スペーサーは、前記電極と同一工程で形成された同一材料からなることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の液晶素子。

(3) 前記電極は複数の並列配置したストライプ状電極からなり、2枚の基板の各電極を直交配置してマトリックスを構成し、各ストライプ状電極に連続して同一厚さ同一材料のリード電極を各基板の一個端に並列して形成したことを特徴とする特許請求の範囲第2項記載の液晶素子。

(4) 前記スペーサーは、前記各ストライプ状電極のリード電極と反対側にシール材配設部まで延長して各ストライプ状電極に連続して形成されたことを特徴とする特許請求の範囲第3項記載の液晶素子。

(5) 前記スペーサーは、最外側のストライプ状電極の外側にこれと平行に前記シール材と重なるまでの位置に形成されたことを特徴とする特許請求の範囲第3項記載の液晶素子。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、セル内の表示領域以外の領域に電極と同じ厚さのスペーサーを形成して均一なセルギャップを得る液晶表示素子の構成に関するものである。

【従来技術】

従来の液晶表示素子構造を第5図、第6図に示す。

従来、液晶素子の製造方法は、2枚のガラス基板1、1'の各々について、画面領域となる部

分に電極 2, 2' をパターン形成し同時に各電極に接続するリード電極をパターン形成した後、その表面に配向処理を施す。次に 2 枚のガラス基板 1, 1' を電極面同士を対向させて、周辺をシール材 6 で封止し、それに囲まれたセル内部をギャップ材 5 を介して貼り合わせる。このときプレス等により加圧して所定のセルギャップを形成していた。

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来例では、第 5 図、第 6 図で示すように、貼り合わされた状態で電極 2, 2' 同士が対向した表示領域 α とそれ以外の領域 β では、上下のガラス基板 1, 1' をまったく平行にしてみた場合（側面からみた場合）、形成された電極 2, 2' の厚さ分だけギャップが異なるために、また全面均一に加圧したときに各領域のギャップはセル内ギャップ材 5 やシール材 6 中のフィラーやギャップ材 7 で保持されるために、電極 2, 2' 同士が対向された表示領域 α の外周部では応力の集中をうける。このためその部分でギ

時工程で形成したことにより、2 枚のガラス基板を貼り合わせ更に加圧する工程において、上下のガラス基板をまったく平行にしてみた場合の電極同士が対向された表示領域とそれ以外の領域とのギャップ差に基づく応力集中を避けることができ、ギャップ材の破壊・変形等によるギャップの薄い領域のない所定の均一なセルギャップを形成できるようにしたものである。

【実施例】

第 1 図、第 2 図は本発明に係る強誘電性液晶を用いた液晶表示素子の第一の実施例を示す。同図において 1, 1' は上下の各ガラス基板で厚さは 1.1 μm である。2, 2' は各ガラス基板上にストライプ状に形成された膜厚 3000 Å の透明電極（ITO）であり、貼り合わされた状態では直交マトリックス状に対向され、この領域が表示領域 α となる。3, 3' はリード電極で透明電極 2, 2' と同じ材質・膜厚で同時に形成した。他の領域にある 4, 4' は所定のセルギャップ 1.5 $\pm 0.1 \mu\text{m}$ を全面均一に維持するため形成した

ギャップ材 5 が変形または破壊し、あるいはギャップ材 5 が電極 2, 2' にくい込み、これによりギャップ厚が他の表示部より薄くなるという欠点があった。特に強誘電性液晶表示素子のようなギャップ厚が 1 ~ 2 μm と非常に薄くしかも各基板の電極をストライプ状に配しそれを直交させるようにして対向させた単純マトリックスの表示素子について、表示面積を大きくし、かつ高ライン数としたときに配線抵抗低下を防ぐため電極を厚くしなければならないときは、上記ギャップ不均一による問題が大きかった。

本発明は上記従来技術の欠点に鑑みなされたものであって、ガラス基板貼り合わせ工程において、ギャップ差による応力集中を軽減し均一なセルギャップを形成可能な液晶表示素子の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段および作用】

本発明によればセル内の表示領域以外の領域の少なくとも一方のガラス基板上に電極と同じ厚さのスペーサーを形成し、しかもそれを同材質で同

スペーサーである。このスペーサー 4, 4' も透明電極 2, 2' およびリード電極 3, 3' と同じ材質・厚さで同時に形成したものであり、その形成法はガラス基板 1, 1' を貼り合わせる前の各基板上にスパッタリングにより ITO を形成し、その後フォトリソグラフィーエッチングによりパターンを形成したものである。このスペーサー 4, 4' の形状は第 2 図において、上側のガラス基板 1 側ではストライプ状の電極 2 をシール材 6 を介する部分まで延長して設けた形状とし、下側のガラス 1' 側では最外側のストライプ状の電極 2' の外側にこれと平行にシール材と重なる位置に同じくストライプ状に設けた。

次にパターン形成した各基板表面に配向処理を施した後、片側基板にのみフレキソ印刷により 1.5 μm のガラスピース 7（例えば商品、触媒化成轉型シリカマイクロピース）をシール材 6（例えば商品、三井東庄轉型ストラクトボンド X N-21 F）に 1% (wt) 混在させたものを巾 1 μm 厚さ 3 μm 転写する。更に表示領域部 α のギャップ

を保持するための $\varnothing 1.5 \mu\text{m}$ のガラスビーズからなるギャップ材 5 (例えば商品、触媒化成鋼製シリカマイクロビーズ) を全面均一に $250 \sim 350 \text{ g/cm}^2$ の密度に散布した。

しかる後に上下のガラス基板 1, 1' をストライプ状の透明電極 2, 2' を直交するよう対向させて貼り合わせ、更に加熱式プレス機により 70°C 、 2.5 kg/cm^2 で 2 分間加圧した。但し圧力分布を全面均一にするためにプレス機面と、ガラス面間に各々 $\varnothing 1.0 \text{ mm}$ のモルトブレンからなる緩衝材を挟んだ。

このとき、シール材 6 を介する部分を含むセル内で透明電極 2, 2' 同士が対向してできた表示領域 a 以外の領域 b に前記したスペーサー 4, 4' が形成されているため、 $\varnothing 1.5 \mu\text{m}$ のギャップ材 5 およびシール材 6 中のガラスビーズ 7 によりガラス基板 1, 1' は平行に保たれた状態で加圧される。したがって、応力・集中によるギャップ材 5 の破砕もなく所定のセルギャップ $1.5 \pm 0.1 \mu\text{m}$ を全面均一に形成することができた。

% (wet) 湿在させたものを巾 1 mm 、厚さ $3 \mu\text{m}$ 転写する。更に $\varnothing 1.5 \mu\text{m}$ のガラスビーズからなるギャップ材 5 (例えば商品、触媒化成鋼製シリカマイクロビーズ) を全面均一 $250 \sim 350 \text{ g/cm}^2$ の密度で散布した。しかる後に前記実施例と同じく、上下のガラス基板 1, 1' を透明電極 2, 2' を対向させて貼り合わせ、更に加熱式プレス機によりプレス機面とガラス面間に各々 $\varnothing 1.0 \text{ mm}$ のモルトブレンの緩衝材を挟んだ状態で全面均一に 70°C 、 2.5 kg/cm^2 で 2 分間加圧した。

このとき、電極 2, 2' が対向してできた表示領域 a 以外のスペーサー 4 を形成した領域 b とリード電極 3, 3' が対向された領域 c では上下のガラス基板 1, 1' 上に形成された電極 2, 2' とリード電極 3, 3' およびスペーサー 4 のトータルの厚さの違い、つまり上下のガラス基板 1, 1' をまったく平行してみた場合のギャップ厚が違うために、加圧したときの各領域のギャップはギャップ材 5 およびシール材中のガラスビーズ 7

その後 170°C 、4 時間の加熱によりシール材 6 を硬化させ、更にセル内に強誘電性液晶材を封入し、電気ドライバーに接続して駆動させたところ、閾値特性の違いによるスイッチング不良や視覚的な色ムラもない非常に表示品位のよい強誘電性液晶表示素子を得ることができた。

第 3 図、第 4 図は本発明の別の実施例を示した図である。

ここでスペーサー 4 は前記した実施例と同じく、ITO 1500 A からなる電極 2 およびリード電極 3 と同じ材質、厚さで同時に形成した。但しその領域は電極 2, 2' 同士が対向してできた表示領域 a とリード電極 3, 3' が対向した領域 c を除いた領域 b の各々一方のガラス基板にのみ単純にストライプ状の電極 2, 2' をシール材を介する部分まで延長した形に形成した。次にパターン形成された各基板表面に配向処理を施した後、片側の基板にフレキソ印刷により $\varnothing 1.85 \mu\text{m}$ のガラスビーズ 7 をシール材 6 (例えば、商品三井東圧鋼製ストラクトボンド XN-21F) に 1

で保持されるので、領域 b と領域 c に近い表示領域部は幾分応力の集中を受ける。しかしながら、その部分で起こるギャップ材 5 の破壊またはギャップ材 5 の透明電極 2, 2' へのくい込みによるギャップ厚が他の表示領域部 a より薄くなる弊害は実用上問題とならない。即ち、領域 b と領域 c には厚さ 1500 A のスペーサー 4 またはリード電極 3, 3' があり表示領域 a 部との厚さの差は 1500 A ($0.15 \mu\text{m}$) しか無いため所定のセルギャップ $1.5 \pm 0.1 \mu\text{m}$ 内に取めることができた。

【発明の効果】

以上説明したように、セル内の表示領域以外の領域の少なくとも一方のガラス基板上に電極と同じ厚さのスペーサーを形成し、しかもそれを同質で同時工程で形成することにより、製造コストをまったく上げずに表示品位の良い液晶表示素子を提供することができる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は、本発明の第一実施例に係る、液晶表

承認子の平面図。

第2図は、第1図のA-A'断面図。

第3図は、本発明の第二実施例に係る液晶表示
素子の平面図。

第4図は、第3図のA-A'断面図。

第5図は、従来の液晶表示素子を示す平面図。

第6図は、第5図のA-A'の断面図である。

1, 1' : ガラス基板、

2, 2' : 電極、

3, 3' : リード電極、

4, 4' : スペーサー、

5 : ギャップ材、

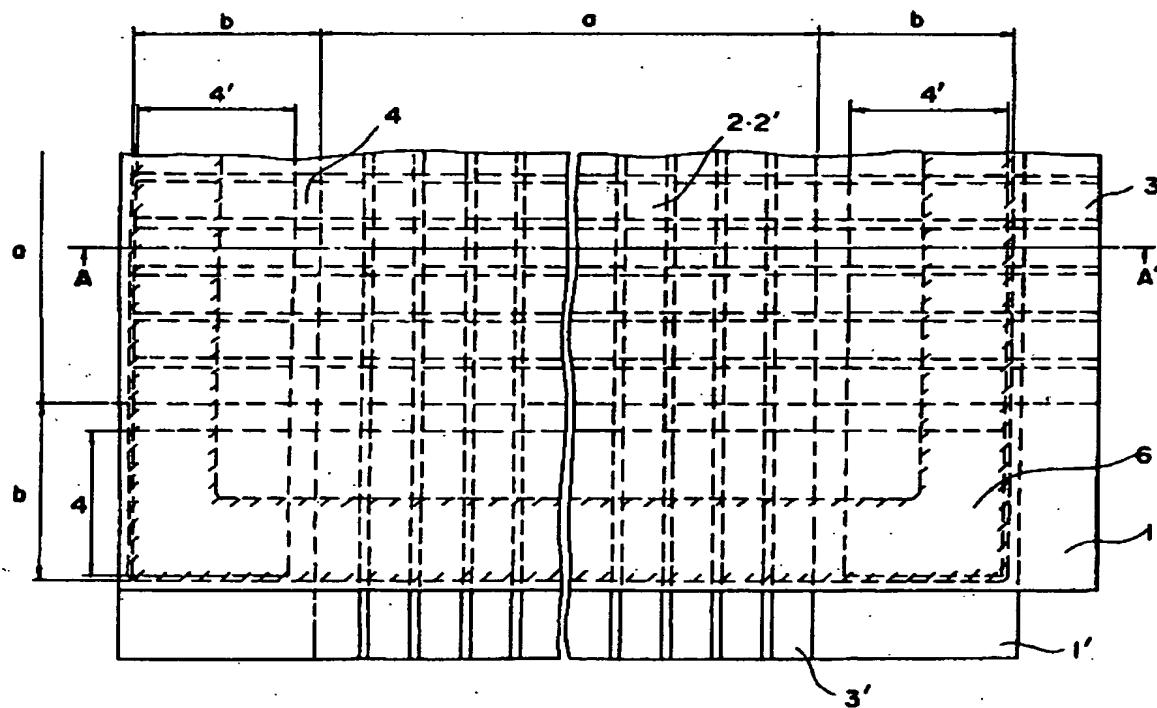
6 : シール材、

7 : ガラスピーブ。

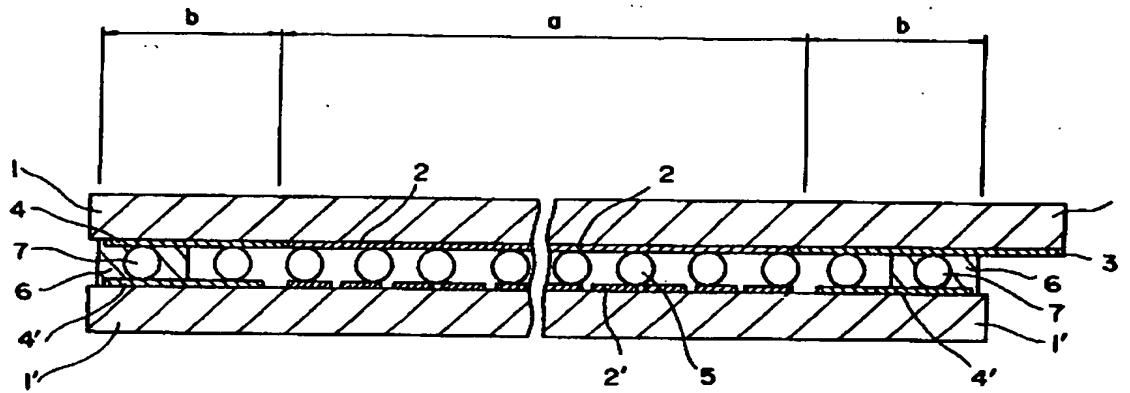
特許出願人 キヤノン株式会社

代理人 弁理士 伊東哲也

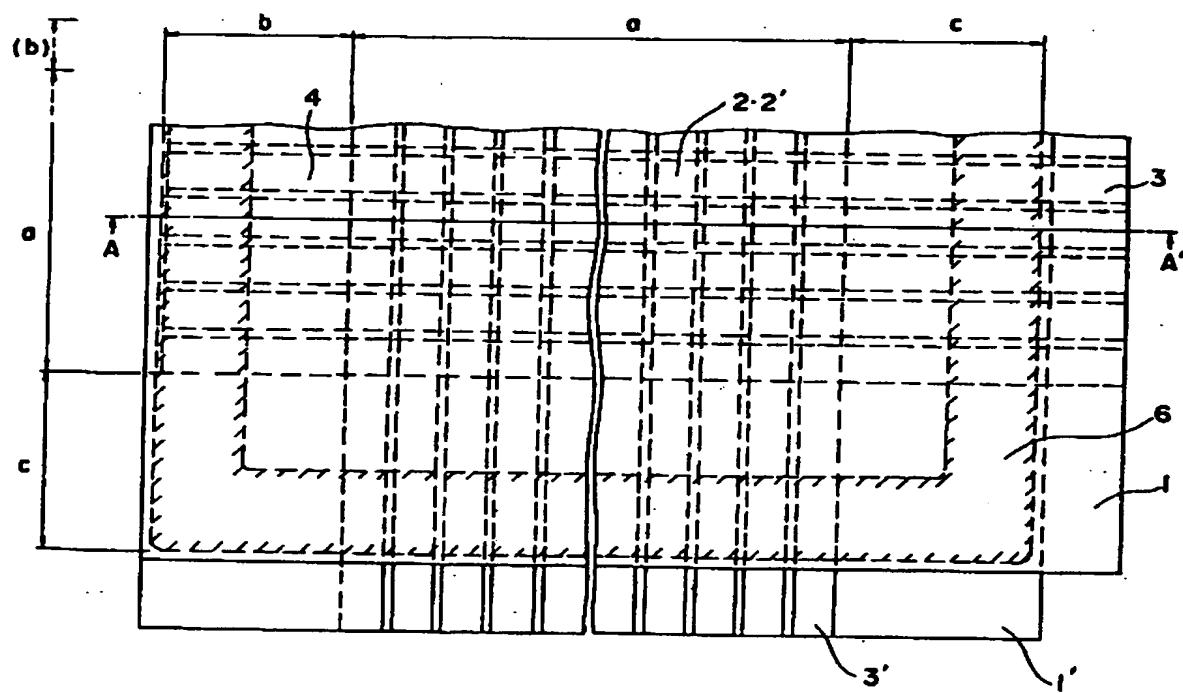
代理人 弁理士 伊東辰雄



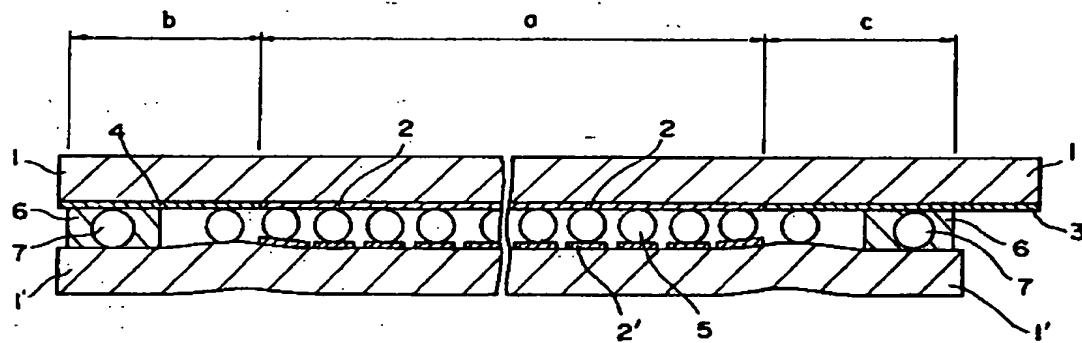
第一図



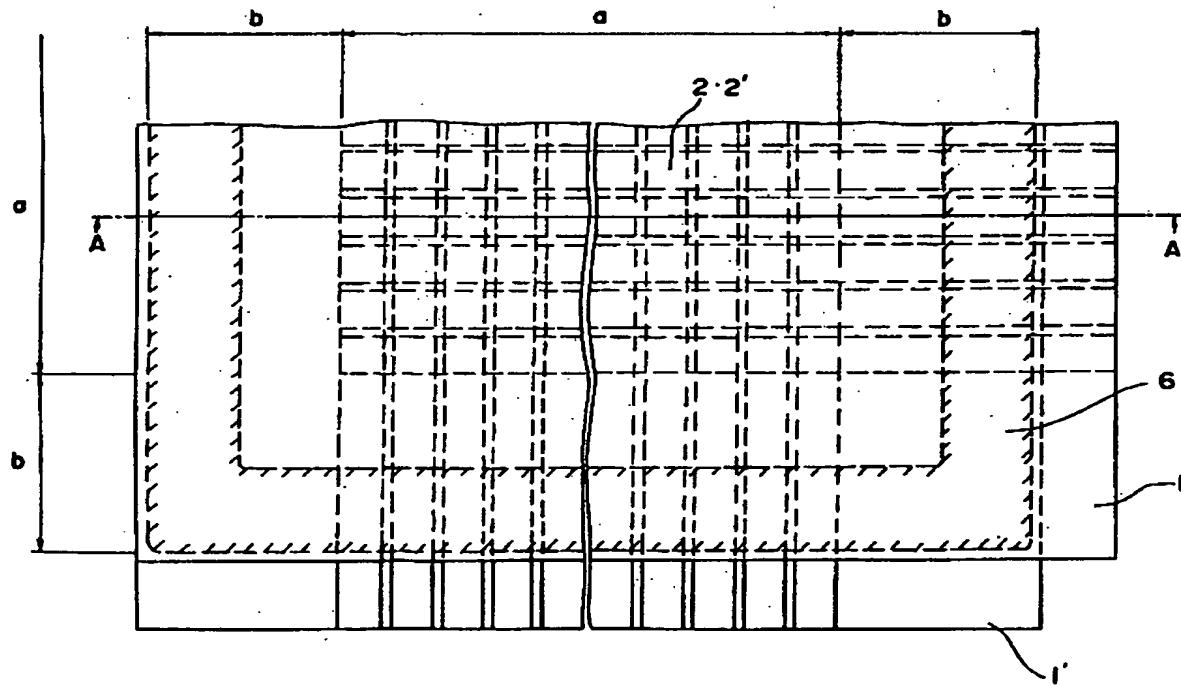
第 2 図



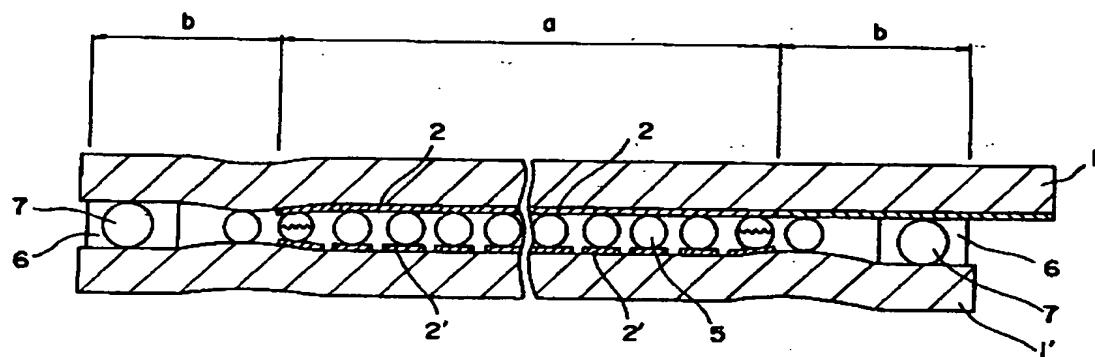
第 3 図



第4図



第5図



第 6 図